

サツマイモ栽培、イベント無料配布でPR

御所市農業委員会



【奈良】御所市農業委員会（壺井和子会長）では、委員が遊休農地の活用で栽培したサツマイモを収穫し、このほど開かれた「食と農のフェスタ」で、来場者に無料で配布した。遊休農地解消活動のPRと地産地消が目的だ。

新たな特産品めざして

大豆生産、泉州ショウガ復活に力



岸和田4Hクラブ会員ら。右から西野朱樹さん、川崎会長、野口浩孝さん、大村拓夫さん

【大阪】岸和田市の若手農業者で構成する岸和田4Hクラブでは、2023年から国内自給率の低い大豆の生産、24年から泉州ショウガの復活に取り組んでいる。大豆生産のきっかけは、輸入の先行き不安を予測し、栽培技術を習得すべきではという声から会員からあがったことだ。

【滋賀】草津市内で子どもたちの居場所づくりに取り組み「こども食堂」の運営を支援しようとして、「祝市制70周年記念

ことになったという。「食と農のフェスタ」では、午前10時から先着250人に1袋500円のサツマイモを振る舞った。わずか10分程度で、すべてなくなるほどの盛況で来場者からは喜びの声があがっていた。

「遊休農地ゼロ宣言」「農地はかけがえのない財産です！」と農地の大切さを訴えるのぼり旗の設置や、サツマイモを入れた袋に農業委員会の遊休農地解消活動がわかるシールを貼って、来場者に活動をPRした。

「お米を食べて笑顔になって」

こども食堂に地元産米を寄贈

草津市農業委員会

草津市農業委員会委員有志の8人が草津産米240kgを寄贈した。寄贈式では、同会有志の代表で、草津市農業委員会の田中治嗣会長が「将来を担う子どもたちが、地元産のお米を食べ、笑顔になってくれることを望みます」と伝え、市内のこども食堂に米を提供する草津市社会福祉協議会の清水和廣会長に目録を手渡した。

清水会長は「こども食堂を運営する団体から、物価高騰に加え、今秋からの米価高騰で、米を提供してほしいと希望が多くあった。米の寄付が少なく、地元産のお米の支援をしてもらえて本当にありがたい」とお礼の言葉を伝えた。



寄贈式に出席した清水会長（中央）、左隣が有志代表の田中会長と委員の皆さん

青年奮闘中

京丹波町 永井吉幸さん

【京都】京丹波町の永井吉幸農業委員（45）は、昨年度から地元（富田区）の農事組合長を務める認定農業者で、前期は農地利用最適化推進委員として活動。昨年2月の改選で農業委員に就任し、地域計画の目標地図作成などに取り組んでいる。

「農業委員として、地域農業の発展のために全力でがんばりたい」と笑顔で抱負を語った。（会沢仁史）



公民館の広場にある看板を紹介する永井委員

農事組合長として地域で活動

推進委員から農業委員に就任

近畿

近畿総局

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2 府庁西別館内 075・441・3660

滋賀県支局 077・523・2439

大阪府支局 06・694・12701

兵庫県支局 078・391・1221

奈良県支局 074・222・1101

和歌山県支局 073・432・6114

鳥獣害に強い地域創りを

和歌山県 対策アドバイザーを認定



修了証を授与する仲真永課長

【和歌山】和歌山県は昨年12月20日、「令和6年度和歌山県農作物鳥獣害アドバイザー」の修了式を行い、新たに16人を認定した。

県では、野生鳥獣による農作物被害を軽減するため、JAGグループ和歌山農業振興センターと連携し、地域の被害対策に助言などを行う「県農作物鳥獣害対策アドバイザー」の育成をすすめている。同制度は、市町村・JA・農業共済の職員を対象で、鳥獣害対策に関する全5回の専門的な研修の受講と「わな猟免許」を取得することで、アドバイザーとして認定。2006年から実施し、2013年時点で131人を認定している。

鳥獣害対策課の仲真永課長は「これまでに身につけた知識や技術を生かして、鳥獣害に強い地域を創り上げていくよう、皆さまの活躍を期待している」と話した。（大野慎介）



新年の夢を語る鮑さん 経営継承のメリットとして「販路がすでに確立され、施設も継承できたこと。さらに売り上げ目標など経営面も学べたことが大きい」と語る鮑さん。自ら「1日も早く師と仰ぐ前経営者のレベルに達したい」と熱い想いを語った。（山口昭彦）

養父市 鮑昌成さん

経営をスター

（山口昭彦）

【兵庫】県北部の養父市「おおや高原」で、ホウレンソウを中心にミズナ、キクナなど約1畝で有機野菜づくりに取り組み鮑昌成さん（43）。

「師のレベルに達したい」 脱サラ、第三者継承で野菜農家に

鮑さんが農業に興味をもち、自宅マンシヨンのベランダでの家庭菜園だった。長年サラリーマンをしていたが、農業に大きな魅力を感じ、新規就農を決意。大阪で「平松農園」で研修し、第三者継承を受けて24年1月から農業経営をスタート。

栽培した野菜は、妻や実家の両親、妹からも好評で、家族の応援が大きな励みになっている。